

<提言>

被災地に配慮した現地調査のお願い

- 地元からの要望 -

岩船昌起（志學館大学）

日本地理学会災害対応本部では「当面の調査自粛」が4月9日付けで緩和され、被災地の支援や復興に貢献することを目的とした現地調査については「各自の判断で実施が可能」との方針に移り変わりました。日本地理学会の災害対応本部のHPに4月4日に掲載して頂いた「提言－被災地の状況と現地調査の心構え－地元からのお願い」<http://www.ajg.or.jp/disaster/files/201103_hisaichi.pdf>は、3月末のやや古い現地情報に基づいているものの、復旧作業が難航している現在の被災地を調査する上で有効な情報が多く含まれていると、東北地理学会東日本大震災災害対応委員会のHP管理者から判断を頂きました。そこで、これを微修正して、東北地理学会東日本大震災報告集に投稿させていただきます。

岩手県宮古市出身で、今回の震災で実家が2階の床まで一部浸水しました。また、知人・友人が死亡または行方不明となっております。現在遠方の鹿児島在住ですが、多くの方々のご協力を得て3月17～22日と28～31日の2期に秋田空港を経由して現地入りができました。基本的に被災した両親や親戚の生活支援のためであり、田老地区を除く宮古市と山田町の中心付近沿岸の被災地域を視察（予備調査）することができました。現在、被災地では「人手や特定の物資が足りない」状況が継続していますが、「復旧」だけでなく「復興」への意識も高まりつつあります。そこで、一定の配慮と準備ができる方々であれば、むしろ早めに調査に入って頂きたいという「地元の要望」をお伝えします。

【現地の状況】

30日現在での現地については、当然のことながら地域ごとに異なります。例えば、宮古市では、内陸の盛岡市と国道106号線で結ばれ、物資が比較的潤沢に入ってきています。買占めや市域の人口規模の違いなどがありますが、盛岡市をスキップして宮古に物資が集まっている印象で、宮古の被災していない地区のスーパーでは盛岡のスーパーよりも品ぞろえが良く、かつガソリン給油のための待ち時間も宮古の方がかなり短いようでした。しかしながら、宮古市から南に位置する山田町では、街の大半が津波で被害を受け、かつ火災で焼失したために、復旧はかなり遅れています。電力の供給も30日現在で「おおよそ1週間かかる」見通しで、物資が不足しています。ガソリンスタンドもほとんどが被災しているために給油できる場所は中心部付近ではまだないはずで

被災者の大半は、心理的に混乱した時期は既に過ぎており、「早く元の生活に戻りたい」

希望を持っています。そのために、「復興したい気持ち」が強く、「今後のまちづくりに関するさまざまな調査は必要」との認識があります。特に、復興に直結する調査を行い、しっかりと結果を残してくれる大学や研究機関の研究者に期待しているようです。また、被災者の中には、キッチンとした人だと思えば自分の被災にかかわることなどを話したがる人もいます。しかしながら、行方不明者に近い肉親などは、まだ不安定な状態にあり、厚い配慮が必要だと思います。

自治体の関係者は、心身ともに疲れています。その日その日に応じて仕事の内容が決まり、かつ泊まりで避難所の仕事をする事が多く、外部からの仕事に対応する余裕が全くありません。従って、自治体関係者に調査に同行してもらったり、資料を出してもらったり、聞き取りを行うことは基本的にかなり無理があると思います。

交通規制に関しては、沿岸を通る国道45号線は数日前から通行可能なはずですが。しかしながら、市街地では通行止めの場所が多くあります。また、Web情報（例えば、岩手県道路情報提供サービス<<http://www.douro.com/>>）で通行可能であっても、瓦礫の撤去作業がある場合には、一時的に通行止めになる場所もあります。遺体が見つかる可能性が高いからで、その場合には入口に警官などが立っています。また、ガソリンの供給が回復したことによって、被災者関係者などの車による渋滞も生じています。

【調査での配慮】

被災地の出身者として、配慮して頂きたい点があります。

・調査で現地入りする時に、「地理学などからの貢献」の意識よりも「被災地の復興を第一に考えて、被災者への配慮」を強く持って頂きたいです。海外からの研究者と思われる人々がタクシーで被災地を回り3階に引っかけた車を興奮気味に撮影していましたが、引っかけた車や散乱した「ゴミ」も、もとは人々が大事に所有していたものです。被災地でそれらの「瓦礫」をむやみに踏んだりする行為を控える姿勢を示して頂けるだけでも、被災地の人々は調査者を信頼します。また「復興ための調査」であることをしっかりと説明できれば、聞き取りにも応じてくれる人も多いと思います。被災者の大半は、ある程度割り切っていますので、基本姿勢を大事にした言動で臨めば、当日の避難行動や亡くなった人などに関する聞き取りであっても応じてくれるはずですが。なお、現地では、泥棒も多く発生していたので、身分を証明できるIDをしっかりと携帯してください。

・「自己完結型」の調査体制がベストです。ホテルなどでやっているところがあるかもしれませんが、寝袋持参で食料も自身で賄える「登山的なスタイル」が望ましいと思います。ボランティア団体の方で、「身体一つで現地に入り、そこで物資などを調達して支援したい。寝る場所もどこか安宿がないか、寺でもよい」という声を聞きましたが、安宿や寺もほとんどは避難所となっています。高齢者が多く地元民のつながりが強い三陸の沿岸地域では、他地域の人々が生活圏に入ってくることをこの時点ではかなり嫌がると思います。プライバシーがない避難所暮らしでストレスがたまった高齢者などの地元民が、さらにストレス

を感じてさまざまな疾病に罹るリスクが高まる可能性もあります。あくまでも被災者・被災地に負担をかけない「自己完結型」での調査スタイルが望ましいです。

【ご連絡ください】

他にも、書ききれていない情報があるかと思いますが、「自己完結型」やそれに準じた体制での調査活動やボランティアを宮古市や山田町で実施される予定がある方は、ご連絡をください。もう少し詳しく現地情報などをお伝えすることが可能です。まずは、メールでご連絡をお願い致します。

連絡先：岩船昌起

E-mail : iwahune (アットマーク) shigakukan.ac.jp

※ (アットマーク) を半角の@に換えてください。

なお、新しい情報などに関しては、再び投稿する予定です。